

佳作 今を大切に~いつの日かモンゴルのために~



ツェレンオチル ドゥーレンジャルガル
TSEREN-UCHIR DUURENJARGAL
国 籍 モンゴル
職 種 介護
実習実施者 社会福祉法人ハインスライフ
監 理 団 体 G T S協同組合

赤いほっぺの田舎の女の子は、運よく大学に合格できました。初めて大都会ウランバートルに来た時、何もが新しく、大学生活への期待の一方、分からないことばかりでした。モンゴルはすごい学歴社会です。親は女の子を大学に行かせたがります。モンゴル女子の4年生大学への進学率は日本よりずっと高いのです。でも、大学生のいる家庭は大変です。

私が入学した時、家には3人の大学生がいました。両親は死に物狂いで働きました。しかし、いくら頑張っても、食べ物を十分買えない日もありました。-40度になるモンゴルの冬、ストーブの燃料が買えないこともありました。それでも両親のおかげで3人は大学を卒業できました。

ある日、友人がアルバイトしていると知りました。私とも思いましたが、見つかりません。やっと日本食レストランのホール係が見つかりました。ここでは日本人に接することも多く、日本についての知識が少しずつ増えていきました。時間マネジメント、日本式サービスなど、日本人からしか習えないことを学びました。大学の4年間はあっという間でした。いつの日かアジアで最も発展

した日本で働きたい、学びたい。この気持ちは強くなるばかりでした。日本はもう私の「夢」になりました。

でも、どうすれば行けるの？私は全然分かりません。日本通のモンゴルの方から、信頼できる受入れ先のある介護技能実習生で行くのがいい。こんなアドバイスをもらいました。幸い難関だと評判の介護施設の面接試験に合格できました。

日本に来てすぐ「お盆」がありました。モンゴルも仏様の国。お盆の意味は分かります。施設の高齢のおじいさんがお盆を迎える姿を見て、私の不安は消えました。亡くなった人を大切に思い、心からお参りする。私がお世話する80歳90歳100歳の老人になった日本人が協力して今の日本をつくったから、日本は発展したのです。

実際、日本に来てみると、身の回りや家族のためばかりでなく、地域や国のために働く尊敬できる日本人がたくさんいます。いつの日か日本で学んだことを、モンゴルに伝えたい。今、長野の高齢者施設で介護技術を中心に、日本語や日本の文化、職場でのマナー、チームワークの作り方、報告・連絡・相談など、全てを学んでいます。私は心の奥底から思います。私の子供はもちろん、世界中の全ての子供が安全に暮らせる世の中になって欲しい。その第一歩は、今私に与えられている介護の仕事を、しっかりすることです。

「全ての道は一步から。」私は一步を踏み出す準備をしているのです。日本の高齢者の介護、それを支える日本語能力を高めます。いつの日か、モンゴルが日本のような素敵な国に発展するための「先生」になれるよう、一日一日を大切に、しっかり学んでいきます。